

山幸橋から高雄

京都府山岳連盟トレイル委員会



標識北山 56トレイル入口

氷室を経て高雄へのトレイルコースは、山幸橋の標識北山55から雲ヶ畑街道（大岩街道）を横断し、対面の標識北山56の階段を登る。

民家の裏に回りこむように進むと、ルートの上側が深い崖となっている場所がある。整備はされているが注意して歩こう。

標識北山 57 標柱は直進せず、折り返すように左折し林間の道を登る。

旧標識北山
57

落雷で全焼の標柱

『標識北山 57 の標柱は、平成 23 年 1 月林間の谷間にあるのに直撃雷を受け、上部の樹木はもとより、周囲には焦げた痕跡も無いのに標柱のみが全焼した（記録写真参照）非常に特異な現象なので特筆する』

杉林を抜けると周囲が開け、害獣除け電気柵は設置されているが放置された畑が開け、畑の中の道を進むと標識北山58 のT字路で左からの道と合流する。



標識北山 58 雲ヶ畑古道

現在では踏跡も確認できないが、現在の雲ヶ畑街道（大岩街道）が開削されるまでは、T字路を直進し左手の谷を降りるルートが、平安時代からの歴史ある雲ヶ畑岩屋山志明院への参拝道だった。

この古道の登り口を車坂といった。都の堂上人、高貴な姫君が岩屋山志明院への参拝する折は、都から車坂まで牛車に揺られ車坂からは輿に乗ったという。

志明院。正式名称は岩屋山金光峰寺志明院。役の行者の創建で中興の祖は弘法大師、本尊は不動明王で岩屋山不動教の本山である。淳和天皇の勅願寺で朝廷始め、公卿堂上人はもとより、庶民にも崇拝された。加茂川の源流の一つで水を司る神を祀る。歌舞伎十八番「鳴神上人」の舞台としても有名である。



盗人谷の危険箇所

盗人谷三の橋
(現在通行止め)

トレイルコースは標識北山58 のT字路を右折し、植林の中の道に入る。枝沢にはトレイル委員会が、丸木橋（一の橋）を設置しているが五年ほどで架け替えている。コースは谷からは相当上部にあり杉の美林が続くが、台風の名残の倒木も目立つ、倒木の乗越が必要な箇所もあり注意して歩きたい。やがて谷沿いの小道になるがこの谷を盗人谷と呼ぶ。

奇異な名であるが、落語に「盗人谷」というのがあり、名の起りを氷室の氷を盗む話で説いているが、真偽のほどは不明。

標識北山 59 とコース案内板がある場所付近から、台風の影響が大きく相当荒れており充分注意したい。主谷を渡るが増水時の渡



盗人谷小峠

渉には十分に気を付けたい。標識北山 60 で谷は再度二股に分かれ、トレイルコースは左股に入る。右股が岩屋山志明院への往古の参拝道で、満樹峠を越え早刈谷から雲ヶ畑街道の中津川に出ていた。国地院 2.5 万円には破線が入っているが、現在はかすかな踏跡が残るのみで、谷の上部の満樹峠手前は廃道で、かつ台風の倒木も未処理のままで進入は避けたい。



氷室の害獣侵入防止柵

標識北山 60 の谷分岐周辺から二の橋跡までは、2018 年の台風 21 号による倒木で、無残なまでの惨状を呈していた。現在は通行出来るまで復旧しているが注意して登りたい。倒木帯を通過すると二の橋跡で橋は流出しており、沢に降りて渡る仮設の迂回路となっている。

二の橋跡手前から右斜面を直上する踏跡を登ると、氷室から満樹峠への途中の「寺山峠」へ至るが、ルート下部は急登で踏跡は不明確である。



氷室の里風景

二の橋跡から三の橋までは緩やかな登りコースであるが、三の橋から氷室の入口である小峠までは急坂が続くのでゆっくり登ろう。

三の橋は腐朽が進んでおり現在通行禁止で。手前から対岸に渡る迂回ルートが設けてある。



国指定遺跡 氷室碑

途中の標識北山 61 の分岐は直進せず右へとり、ひとがんばりで標識北山 62 の小峠に着く。峠から右へ分岐する踏跡は、先程の二の橋跡からのルートと寺山峠で合流し、満樹峠を経て十三石山へ(約 40 分)で至るルートである。

十三石山(三等三角点 495.5m)、山名は往古、雲ヶ畑村が上賀茂神社に米十三石で山を売渡した事からとも、この山の年貢が十三石だったとかに由来するともいわれている。満樹峠は岩屋山志明院の参詣道として人の往来が盛んだった頃、峠に 1 軒の茶店があり名物饅頭を出していたことから饅頭峠が偏ったという説。また、古書によると一帯に大樹が満ち満ちていたためとも記されている。



氷室の跡

こんな伝説もある。牛若丸が鞍馬山で修業中に、所の長者の娘である満樹姫の元に夜な夜な通ったという。そういえば子供の頃に女の子の羽子板に、満艦飾の髪飾りを付けた満樹姫の押絵があったような気がする。

現在、標識北山 62 の小峠には林道が開削された。小峠から林道を西に直進すると標識北山 63 の T 字路と出会う。右にとると途中で小峠からのルートと合流し、満樹峠を経て十三石山へのルートにつながる。氷室へは T 字路を左折し害獣防止柵を潜る。害獣防止柵は通行後はしっかりと扉を施錠する事。民家の先に標識北山 64 がある。

京見峠方面からの逆コースの場合、標識北山 64 から誤って直進しない事。トレイルコースは標



杉坂の道風神社



氷室神社



往時の京見峠茶屋



標識北山69からの展望



標識北山 69～70

識を左折して民家の間から害獣防止柵を通過する。

氷室はいつ来ても静かな日本の原風景の様な山里の集落である。氷室の里の由来となった氷室跡への道は、地蔵様が祀られた標識北山 65 の辻から山へ向かう林道へ入り、すぐに左上へ登る細いあぜ道に入る。民家の裏手を通り前方の山裾を目指し、山裾から左に降りるあぜ道に、害獣進入防止の電線を外して通り抜け、国指定史跡の石標が建つ分岐を右手の高みに登った処である。何の変哲も無い窪みが三ヶ所ある。通過した電線は元通り掛けておこう。

氷室とは夏に朝廷へ献上するための氷を貯蔵しておく穴室のことで、平安京の造都にともなって六か所の氷室が作られ、この地もその一つであり栗栖野氷室跡といい『延喜式』にも記載された国指定史跡である。辺り一帯は民有地であり、住民の姿を見かけたら一声かける挨拶等の心使いが欲しい。

氷室跡からあぜ道を降ればすぐに小道となり、約 1.7 km で杉坂の道風神社の前に出る。道風神社は花札の「柳に飛びつく蛙」の図柄にも描かれた、平安時代の三蹟の一人小野道風ゆかりの神社である。道風神社前から狭い府道 3 1 号線を京見峠方向に登れば、約 1.8 km で「レストランはせがわ」入口の標識北山 67-2 でトレイルコースに合流する。

地蔵様の標識北山 65 まで戻り、舗装道路を進むと左手に氷室神社がある。古びた鳥居越しに参道の奥に見える拝殿は、徳川家康の孫で後水尾天皇の中宮、東福門院の寄進になるもので京都府登録文化財に指定されているが、拝殿には蓋い屋根が設けられ、今は「枯れた」という表現がぴったりの神社だ。

氷室村の産土神でもある。仁徳天皇の時代に額田大中彦皇子へ氷を献上したという、稲置大山主神が氷室大神として祀られている。また、氷室神社は古来痘瘡（天然痘）の神としても信仰されてきた。天然痘が廃絶した我国では、神様もさぞ無聊を困っておられるに違いない。拝殿脇の湧水は小水量ではあるが美味である。

上賀茂へ分岐の標識北山 66 から、城山の峠上までだらだらと舗装道路の辛い登りだ。峠から右上に登る踏跡を辿り高度差数十m登れば、城山の（三等三角点 479.8m）である。疎林の中に室町時代の城郭（砦）遺跡が散在しており、明智光秀が砦を築いたとの伝承もある。展望は無いが時間があれば寄ってみたい。

舗装道路の登りを嫌うなら、氷室跡から杉坂に向かうあぜ道を少し下り、左の一つ目の浅い谷を詰めると、城山の南西尾根の林道に登り付く。城山下の無線アンテナを目標に左折すればトレイルコースに合流する。あまり歩かれていないので踏跡に注意が必要。



前坂の地藏尊

城山下の無線アンテナを過ぎると左の尾根に小道が分岐するが、作業道でありトレイルコースは補助標識が設置してある舗装道路を降る。

標識北山 67-1 の三叉路「氷室別れ」で、トレイルコースは2コースに別れる。従来からのトレイルコースである京見峠には、「氷室別れ」の三叉路を直進し峠を越えて約 400m 降り、京都一周トレイルの案内板のある標識北山 68 から右へ急坂の山道を登る。

『※ このルートは秋の九月二十五日から十一月十日までのマツタケシーズンは通行禁止で、標識北山 68 から更に舗装道路を下り、峠の茶店のある「堂の庭」を経て、長坂分岐を千束まで下り、東海自然歩道を紙屋川の源流の坂尻まで詰めて、上の水峠に登る迂回路を利用する必要がある』



山のレストランはせがわ

京見峠は往古「洛中一望の中にあり」と称され、京都を望む絶景の地であったが、今は植林が成長したため、かつての絶景は望むべきも無い。また、京への入口の一つとして、多くの旅人が一服した峠の茶屋は残念ながら閉鎖されてからもう久しい。



はせがわのトイレ棟

大正時代に周山街道が開削されるまでは、京見峠を経る長坂越えが西の鯖街道で、丹波から都への脇街道でもあった。源平の昔から南北朝時代を経て応仁の乱でも、多くの戦場としての歴史を持ち、ちなみに千束とは墓場という意味で戦乱の歴史を彷彿とさせる。迂回路の長坂越えを廻るのも、このような歴史を持つ道と思えば一興である。



標識北山 70 付近

トレイルコースは標識北山 68 からの急坂の山道を登りきると、なだらかな尾根道となる。その先の標識北山 69 からの京都市街の展望は素晴らしい。トイレのある「レストランはせがわ」への分岐、標識北山 70 のコルはすぐ近い。「レストランはせがわ」への往復は約 30 分である。



旧北山 76 崩落地通行止

「氷室別れ」からのもう一つのコースは、標識北山 67-1 を右へ杉坂方面に向かうと、由緒ありげな地藏さんの祠が岩の上に鎮座している。この辺り槍磨岩町という。千束と同様いかにも戦国の名残を思わせる地名である。京見峠から前坂の集落を過ぎ、標識北山 67-2 を左に曲がると、ログハウス「レストランはせがわ」がある。前坂の名水で沸かしたコーヒーを一度は味わいたい。



上の水峠新北山 76 標識

「レストランはせがわ」にはオーナーの好意により、京都一周トレイルトレッカー用として、北山 67-3 標識の対面にある棟の二階にウォッシュトイレが整備された。汚さないようきれいに使用



菩提ノ滝道合流北山 77



沢山分岐新標識北山 78



旧 上の水峠の祠



沢ノ池夕景



沢ノ池秋色



初夏の沢ノ池

したい。

「レストランはせがわ」の前の標識北山 67-3 から、左に入る林道を登り詰めると、標識北山 70 で春には枝垂れ桜も美しい山小屋のコルに登りつく。京見峠ルートとの合流点である。8 月 15 日の夜、大文字送り火の秘めた参拝場所でもあるが、レストラン長谷川から真っ暗な山道をたどる必要があり、それなりの準備は必要である。

標識北山 70 から林道を進み、左に入る山道の分岐が標識北山 71 である。標識北山 72、標識北山 73、標識北山 74 の標識に誘導され、最後に急坂を下ったところが、標識北山 75 の「上の水峠」分岐である。

千束から坂尻を経るマツタケシーズン中の迂回ルートは、台風の倒木処理も済み、標識北山 75 で合流している。

旧来の「上の水峠」は、旧標識北山 76 から旧標識北山 77 に至る展望の良いコースであったが、旧標識北山 77 の手前で、2018 年の台風 21 号により完全に崩落し通行不能になった。そのため現在は標識北山 75 から反対方向に、東海自然歩道である林道を北に辿る。新標識北山 76 で林道は舗装路となり、新標識北山 77 で、国道 162 号線京都市右京区中川からの菩提ノ滝林道と合流し標識北山 79 に迂回する。

崩落した旧「上の水峠」には岩頭に小さな祠がある。中には肩を寄せ合った三体の仏様が祀られ、峠を西に下った「中川」の盆踊歌にも歌われる悲恋物語が伝わっている。崩落で人も通らなくなり歴史からもひっそりと消えていく峠道である。

標識北山 78 林道分岐、標識北山 79 分岐を左へ辿れば、旧「上の水峠」岩頭の祠を経て、沢山の（三等三角点 516.0m）に至る。

標識北山 79 を 1k m 弱も舗装林道を登れば、標識北山 80 の「沢ノ池」である。「沢ノ池」は豊富な湧水があるのか、大きな沢も流入していないのに、いつも満々とした水を湛えている不思議な池である。

現在は「菩提の滝」の水源にしか役立っていないようだが、元々は嵯峨野地区の灌漑用に作られた人工池で、標高 360m の山中に広々と静まりかえっている。標識北山 80 の林道ゲートから 200m 程の砂浜は、時代劇の映画・テレビのロケ地にも度々利用され、絶

好の休憩場所、一帯が縄文時代の「沢ノ池遺跡」であり、よく探せば石の矢尻等が見つかるかも知れない。



標識北山 81 で林道は終点で、木の根が露出した坂を少し登れば、標識北山 82 の「仏栗峠」である。いつの頃から呼ばれている名であろうか、なんとも思わせぶりの峠名である。今は使われていないが、沢の池からは、仏栗峠下から高鼻川に流れる隧道と、途中から分岐して三宝寺川へと流れる隧道の 2 本があり、鳴滝川経由で嵯峨野の灌漑用水として送られていた。今も峠の下に人知れずひっそりと眠っている。



北山 85 分岐

標識北山 82 を左に行けば「沢山」への道が分岐し、そのまま直進すれば「桃山」、「白砂山を経て鳴滝」へ下る道に至るが、倒木が多く通過は困難が予想される。

トレイルコースは標識北山 82 を右折する。福ヶ谷林道までのメインルートは台風による倒木の処理が進み、標識北山 84 までは樹林の中の緩やかなルートになったが、途中の分岐には入らないように注意。標識北山 83 で鳴滝高鼻町に降るルートが左に分岐するが、整備されていないので注意。



福ヶ谷林道から愛宕山

標識北山 84 では直進せずに左折すると、やがて急降下の岩稜交じりの降りとなり。雨裂で深くえぐれたルートも残っているので足元には十分に気を付けよう。 台杉の植林を抜ければ、標識北山 85 の舗装された福ヶ谷林道分岐に降りつく、林道を 20m 程登れば道路右にきれいな水場がある。



鷹司兼平公墓標

標識北山 85 で分岐する未舗装の林道は、鳴滝高鼻町に出られるが林道は途中までで、林道終点からはおびただしい風倒木と、何度も渡渉を強いられる悪路で現在は通行不能である。

トレイルコースは標識北山 85 から福ヶ谷林道の舗装路を降る。逆コースの場合は、高鼻町に向かう未舗装林道に沿うように、台杉の植林端にトレイルコースの山道が登っている。



高山寺参道秋景

京都一周トレイル北山コースは、よく手入れされた真っ直ぐに延びた杉の美林の中を歩くルートが多い。この杉が和風建築資材に囑望される北山磨き丸太に加工されるのである。応永年間に生産が始められたと伝えるが、ことに中川地区では特に粒子の細かい「菩提の滝」の砂を採取し、冬季に姉さん被りに紺がすりのもんぺ姿の女性が、素手で丹念に磨き上げて仕上げるのである。北山の冬の風物詩で川端康成の「古都」の舞台でもある。

北山杉の植林でプラスチックの小片を巻きつけた木に気がつく、この杉が人工的にシボを付けた床柱に加工されて高級建材となる。

標識北山 86 を経て、急坂の舗装林道を降れば榎ノ尾で、標識北山 87 は国道 162 号に架かる白雲橋の脇にある。国道を右折し橋を渡れば約 250m で榎ノ尾の高山寺に至る。



高山寺、真言宗御室派の単立寺院であり、いわずと知れた鳥羽僧正の国宝「鳥獣人物戯画」はじめ、数多くの貴重な美術工芸品を所有する。度々の戦乱でほとんどの建物は後年の再建であるが、明恵上人の住居跡と伝えられる石水院は、鎌倉時代に建たてられたもので国宝に指定されており、寺域全体が国の史跡に指定され、もちろん世界文化遺産にも登録されている。

福ヶ谷林道を少し入った処から、福ヶ谷筋に降り渡渉する踏み跡がある。福ヶ谷林道入口に立っている「鷹司兼平墓」へのルートで、対岸に渡れば古い供養塔が建っている。

標識北山 87 から国道を左折し約 200mで、市バス JR バスの榎ノ尾停留所である。バス停前の三差路から南に降る下る道が、清滝方面に向かうトレイルコースで、三差路の角に北山 88 標識が建っている。

「所要時間参考」

山幸橋北山 56 (25 分← →35 分) 小屋跡北山 60 (25 分← →30 分) 小峠北山 31 (10 分← →10 分)

氷室、地蔵の辻北山 65 (35 分← →35 分) 氷室別れ北山 67

※ 氷室別れ北山 67-1 (15 分← →10 分) 京見峠分岐北山 68 (15 分← →20 分) 標識北山 70

※ 氷室別れ北山 67-1 (15 分← →10 分) レストランはせがわ北山 67-3 (10 分← →15 分) 標識北山

70 (40 分← →35 分) 上水峠北山 75 (20 分← →25 分) 林道北山 79 (15 分← →15 分) 沢ノ池北山

80 (15 分← →20 分) ほとぐり峠北山 82 (15 分← →15 分) 北山 84 分岐 (30 分← →20 分) 福ヶ

谷林道分岐北山 85 (10 分← →20 分) 山幸橋北山 87 (5 分← →5 分) 榎ノ尾バス停北山 88

山幸橋～高雄間のトレイルコース詳細は「京都一周トレイル北山西部」地図を参照してください。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは

京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください